

都市間市民交流による巴川流域の保全を基軸とした地域域活性化事業

事業報告書

2010年3月

特定非営利活動法人食農ネットワーク

1. 事業の目的

巴川の流域にある里山は過疎と高齢化によって、流域森林が荒廃し、休耕田、耕作放棄田が急激に増加していることで、生物の多様性保全、水源林としての機能が低下しつつある。この水の環境を、流域という視野で捉え、川だけでなく、流域の里山や、海と川とが混ざる河口の環境、湧水や水田など、流域の幅広い水の環境を都会からの市民ボランティアと流域住民との交流を通じて清掃などの保全活動を行うと共に、流域の生態系の調査、環境調査を実施し、流域の水環境に対する市民の意識向上を図り、市民交流による地域活性化を図る。

2. 事業内容

- ①淡水と海水の混ざる環境に生きる魚、川と周辺の田や林を行き来する両生類、流域の植物など、生態系の基礎調査を実施し流域の水環境と動植物の保全計画を策定する。
- ②放棄水田の保全、水源を育む里山の保全を企業CSR事業との協働により取り組みする。
- ③流域における健全な水循環と生物多様性の保全、持続可能な保全の為、東京を中心とした都市住民、流域の学校、流域住民、NPO、農業集団、企業など多様な参画を得られる仕組みを構築する。
- ④流域の保全活動を通じて地域活性化を図るための交流イベントを実施する。

3. 事業実施結果

①巴川流域自然環境保全計画の策定

巴川流域自然環境保全計画（巴川流域の自然環境保全に関する考え方）別添資料の通り取りまとめた。

②市民参加による流域の環境調査の実施

(1)時期：平成22年1月23日(土)及び24日(日)

(2)内容：冬でも暖かい南房総で清流沿いをハイキングしながら河口域の生物観察しよう。

(3)場所：南房総市白浜町滝口（めがね橋～長尾川親水公園～長尾川河口）

事業計画時、工事予定が認識されておらず、巴川河口付近での自然観察会を企画した。自然観察会の事前調査時に工事が行われており周辺が立ち入り禁止となっていることが判明し、それらの工事の終了を待ち実施することとして、市役所などと協議したが、工期の遅れなどがあり、年度内の自然観察会の企画ができない状態となった。そのため、安全に自然観察ができる同じエリアを源流とする長尾川の河口付近において、観察会を実施した。

(4)参加者：一般市民対象（23日親子11組32名 24日親子12組21名 計23組53名）

(5)当日のスケジュール

9：30 集合（館山市）：アークス駐車場（館山市北条1708）

10：00 長尾川親水公園到着

自然観察・散策（めがね橋～長尾川親水公園～長尾川河口）

11：40 長尾川親水公園から昼食地へ移動

12：00 昼食：地元食材を使った昼食（～13：00まで）

13：20 アークス到着

水鳥の絵付け、たから貝ストラップ作りなどのクラフト

絵日記の作成

里山ファンクラブの説明と勧誘（入会無料）

参加者へのお土産プレゼント

14：30 終了 解散

親子で里山自然観察楽しむ

県委託事業に50人超参加

南房総

南房総市白浜町の長尾川河口域で23、24の両日、房総里山農学校による「冬のボカボカ自然観察」があった。県内外から23組50人を超える親子が参加し、文字どおり春を思わせる陽気の下で、自然を満喫した。

NPO法人食農ネットフークの下部組織の同学校が、県の委託事業として計画。清流沿いをハイキングしながら生物観察や創作活動を楽しんだ。

起ってきた滝を見学しながら冬の野鳥を観察。海岸ではタカラ貝を採取し、午後は携帯ストラップづくりやミニデコイの色つけも楽しんだ。

鴨川市から参加した親子は、「野鳥の多さにびっくりした。親子でつくったストラップは宝物です」と笑顔で話した。地元食材を使ったおいしい昼食や採れたての新鮮野菜のプレゼンもあり、参加者は暖かな冬の一日を満喫していた。

県指定文化財の「めがね橋」や、地震による隆

房総里山農学校では、今後も磯の生き物観察会



野鳥について話を聞く参加者＝白浜町の長尾川で

やカブトムシ採集、宇宙と地球を学ぶ子どもキャンプなどを企画している。

問い合わせは、同校から
 (050-1492-
 スタ
 8522)まで。

市の「よかまてカフェ」にて開催。お問い合わせは「よかまてカフェ」まで。



1 / 2 3 ~ 2 4 イベントの様子

③放棄水田の保全、水源を育む里山の保全活動

< 第 1 回目 >



(1) 時期：2009 年 10 月 30 日開催

(2) 内容：巴川の源流に位置する里山保全、耕作放棄地の保全活動

(3) 場所：巴川の源流の館山市神余集落

(4) 参加者：賛同する企業の社員と一般市民
(参加者 5 名)

< 第 2 回目 >

(1) 時期：2009 年 11 月 24 日開催

(2) 内容：巴川の源流に位置する里山保全、耕作放棄地の保全活動

(3) 場所：巴川の源流の館山市神余集落

(4) 参加者：賛同する企業の社員と一般市民 (参加者 12 名)



④専門家などによる流域のフィールドワーク



(1) 時期：2009年11月27日

(2) 内容：流域でのフィールドワーク

(3) 場所：千葉県館山市神余から白浜地域巴川河口

(4) 参加者：専門家等による検討委員（委員3名＋地域住民3名＋事務局2名）



⑤保全計画の策定、体制整備に関する検討会

(1) 開催日：2009年12月4日 16:00～18:00

2009年12月20日 17:00～19:00

2010年1月14日 15:00～17:00

2010年3月1日 17:00～20:00

(2) 検討内容：「巴川流域の貴重な水辺の動植物の保全計画」について

「多様な参画を得られるシステム（ボランティア倶楽部の組織化）」の検討

(3) 場所：千葉県館山市北条1633-2 アークス内会議室

(4) 参加者：検討委員＋事務局

検討委員名簿：小川孝彦（ソーシャルトラスト株代表取締役）

船橋雅樹（フィールドガイド）

井上雅之（ネイチャーガイド）

飯田直美（ネイチャーガイド）

柳瀬浩志（農家）

4. 事業成果

①流域の水環境と動植物の保全計画を策定した。(保全計画は別途添付)

策定した計画は、千葉県庁自然保護課、館山市商工観光課、地域住民へ配布したことによって、保全計画などの活動内容を広く普及啓発した。

保全計画の普及の為のWEB：<http://kanamari.com/tomoegawa/>

②流域保全のボランティア倶楽部が組織化され、地域内の住民との交流が始まっている。

個別のボランティアクラブの組織化も検討されたが、現在、当NPOが組織している里山ファンクラブとの連携により推進することとして対応する。

既に、巴川の源流に位置する里山保全、耕作放棄地の保全活動により、地域内の住民との交流が行われ、流域の水環境が整備されるなどの成果が見られる。

③都市間交流を基軸とした市民活動による流域という範囲での水の環境保全のモデル的な取り組みとなったと考えている。地域の活性化については、経済的な側面だけではなく、人的な交流によって、地域にソーシャルキャピタルが蓄積されはじめたことも地域の活性化に大きな影響を与えたと言えることができる。

この報告書は、競艇の交付金による日本財団の助成金を受けて作成しました。